

# 今後のまちづくりにおける このまちの強みと課題

## －アンケート、ヒアリング等から見えてきたこと－

### 1. 当市の強み

#### 1) 先進的な協働の地域づくり

32の地域振興組織が、それぞれ独自の地域づくりに取り組んでいます。

また、多文化共生、市民総ヘルパー構想等、協働を啓発する取組が進んでいます。



#### 2) 暮らしに根付いた伝統文化

神楽や毛利元就といった歴史・文化は、老若男女問わず地域資源として強く認知されています。

特に神楽は、高校での部活動に取り入れられるほか、神楽甲子園を通じた地域間交流等に繋がっており、この地で学ぶ魅力を高めています。



#### 3) ブランド力の芽生え

あきろまん、白ネギ、夜叉うどん等、地域産品を活かしたブランド化の取組は、着実に知名度と評価を高めています。

これらの取組は地元住民にも認知・評価されており、地域一体となったブランド発信の基礎が構築されつつあります。



#### 4) 田舎らしさと都市らしさの共存

当市は田舎らしい魅力に満ちた環境と、都市的な利便性を兼ね備えています。

加えて、広島市まで1時間という好立地に位置しており、田舎暮らしやUターンに憧れを持つ若者の受け皿となる可能性を秘めています。



#### 5) 行財政改革の進展

職員定員適正化計画を上回る水準での職員数削減、公共施設の統廃合及び民間委託の推進等、行財政改革を着実に進めてきました。

また、クリスタルアージュ、光ファイバー等の大型施設整備が完了しています。



### 2. 当市が抱える課題

#### 1) 次世代の確保 -働く場、暮らす場、育てる場の整備-

次世代確保という課題は前回計画においても同様で、その解決に向けた取組を展開してきましたが、人口減少の流れを食い止めるには至りませんでした。人口減少が続く中、行政サービスやまちの存続に対する危機感は、今後さらに強まっていくものと予想されます。

若者に対する定住政策の柱は「働く場・暮らす場」の整備ですが、これまでを振り返ると「働く場」の整備が遅れをとってきました。暮らす場の整備においては、増える空き家の有効活用を考えていく必要があります。また、次世代確保の本質は子供の数を増やすことであり、「育てる場（出産・子育て、教育）」としての魅力も高めていく必要があります。

#### 2) 安心して暮らせる環境整備 -いのち、地域産業、老後を守る-

「安心できる暮らし」はまちが提供すべき最も基本的で重要な機能であり、すべての行政サービスは、究極的にはこれを目的として実施されています。

防災防犯、生活環境、保健福祉といった分野における取組は、市民から一定の評価を得ています。しかし、大規模自然災害の発生、ますます深刻化する人口減少・少子高齢化社会、国際的な金融危機等、予測が難しく安心を脅かしかねない事柄が社会にはあふれています。

「安心」において、何よりも守るべきは命です。近年の大規模災害等の教訓から、災害発生直前～直後における自助・共助のしくみを充実していく必要があります。また、生産人口の減少が続く中、高齢者や障害者等、社会的な支援を必要とする人たちを支えていく仕組みづくりも急務となっています。加えて、中小企業・個人商店等の店じまいが相次ぐ中、暮らしの基本である「お金を稼ぎ、消費する」という経済活動をこのまちで維持していく（地域内経済の循環）必要があります。

#### 3) 効果的で効率的なまちづくり -地域資源、協働、伝える-

税収の低下、社会保障費の増大等に伴う厳しい財政状況の中、選択と集中による行財政改革は着実に進んできましたが、今後は地方交付税の減額も加わり、さらに厳しい運営に対応していくこととなります。

こういった状況の下でまちづくりを推進していくためには、新しいものを作る前に、既存資源を最大限活用していこうとする姿勢が必要となります。効率よくコトを動かしていくためには、各主体がそれぞれの立場を活かし役割分担の下で協働していく必要があります。また、サービスを確実に利用してもらう意味でも、協働する上での共通認識を育む意味でも、取り組みの内容をターゲットとなる相手にしっかりと伝えていく必要があります。

以上